

見えることから、理解が始まる

当 HP で書籍「アフリカの『闇』 - 子どもたちの悲惨な現実 - (「雑学」バックナンバー - 「書籍等読后感関係 () P 2005.6.28. : 参照)」の感想を掲載したが、タイミングよく昨夜、NHK スペシャル「アフリカ ゼロ年」で「内戦による虐殺」が放送された。今後、「子ども兵」、「エイズ禍」、「石油争奪戦と貧困」を取り上げ、4回シリーズで放送予定とか。

第一回を見て、「見えないことは、理解できない」という言葉があるように、文字による情報よりはやはり映像の方が、アフリカの「闇」の現実と背景を理解するにはインパクトがあった。

今回のサミットの主要議題の一つは、「アフリカ支援」であり、それに合わせての放送かなとも思う。

サミットでは、先進各国がアフリカ支援を合意し、支援費増額を確認し合ったようだが、書籍の一文を思い出した。

先進国の資金援助だけでは、政権を握る為政者や一部の利権者に回り、真に支援を必要とする「最弱者」の支援になり得ていない現状から、「『アフリカに対して何をすべきか』の前に『何をすべきでないか』をまず考えるべきと思う。」という視点からの援助のあり方を提示している。

例えば、支援で作られた立派な橋も、橋に至る道路の未整備、その道路すら政変でいつ整備されるかも分からない現状。また、貧しい国家財政の中でいくら医師や看護師を育成しても、先進各国からの横取り、等々。

大使の経験ある著者は、アフリカ各地で実際に観察し、あるいは直接関わった範囲内から、先進国が援助として持ち込む「プロジェクトの7割は成功からほど遠い。」と明言している。支援費が、時の為政者や一部の人の利権の懐に納まらないことを願うばかりである。

今回のサミットで、日本は来年から5年間に1兆1200億円を支援負担するそうだが、お金だけでなく、アフリカの未来を担う子どもの育成への知恵も支援した方がいいと思う。

アフリカの子どもたちの悲惨な現実に関心が行った折、丁度タイミングよく、サミット関連記事、また、TV放送で、より多く、その背景、現実を知るチャンスに恵まれたのは、偶然か、必然か……。

もちろん、放送のシリーズは全部見ようと思っている。これも、「全ての人間は、産まれながらにして知ることを欲する(アリストテレス)」という、自分の内なる人としての必然か……。

(2005年7月10日 記)